

千葉県松戸市の「テラスモール松戸」における誰もが利用しやすい

ベビー休憩室の計画的要件に関する研究

日大生産工（院） ○平野三奈 日大生産工 古田 莉香子
日大生産工 広田 直行

1. はじめに

1-1. 背景と目的

授乳とおむつ替えは、乳児との生活において中心的な行為である。さらに、近年男性の育児参加率が増加傾向にある。それによって、外出時に生じるおむつ替えや授乳は、外出することへの障害となっている場合がある。

そのような中で、近年商業施設や公共施設において、子育て世代の外出支援策の後押しもあり、授乳とおむつ替えができる場所として「ベビー休憩室」^{注1)}（以下ベビー休憩室と呼ぶ）の整備が進められている。しかし、明確な設計指針がなく、施設によって設備が異なることが現状である。そのため、使いにくさ、設備の不十分さ、プライバシーの配慮不足など、利用者が必ずしも快適に利用できない事例も見られる。

拙稿である「千葉県松戸市のコミュニティ施設における男性目線を考慮したベビー休憩室の設置実態に関する研究」^{注2)}において、「赤ちゃんぽけっと」^{注3)}登録施設の整備状況について調査した結果、「赤ちゃんぽけっと」には明確な指針がなく、施設によって整備状況も異なることから、快適に利用できない事例があることが現状であるとわかっている。

また、既往研究として、仲らの「大型ショッピングセンターにおけるベビー休憩室等の整備実態に関する研究」^{注4)}（2017）によると、大型ショッピングセンターにおけるベビー休憩室等の整備実態は、整備レベルが高いことが明らかにされており、先進事例の実態を把握することは今後のベビー休憩室のあり方を検討する上で意義があると位置づけられている。しかし、複合商業施設の各施設に着目した整備品目を研究対象としたベビー休憩室の計画的要件に関する研究はない。

そこで本稿では、松戸市を中心とする周辺エリア^{注5)}では最大級の大型複合商業施設で、「赤ちゃんぽけっと」未登録施設である「テラスモール松戸」を対象とし、計画的要件についての調査を行う。

誰もが利用しやすいベビー休憩室の計画的要件に関する研究の一環として、千葉県松戸市の「テラスモール松戸」を対象に、配置、構成、設えなどの視点から設置実態を明らかにし、施設における利用者の利便性向上の一助となることを期待する。

1-2. 研究の対象

表1より、「テラスモール松戸」は、2019年に竣工した地上4階建ての商業施設であり、1階、2階、3階の3か所にベビー休憩室が設置されている。テラスモール松戸のホームページに記載されている施設コンセプトより、対象施設は各階でコンセプトが異なることがわかる。また、図1より、フロアマップからベビー休憩室の配置を読み取ることが可能である。

表1 施設の概要

施設名称	テラスモール松戸
敷地総面積	49,000m ²
延床面積	102,479m ²
建築年	2019年
階数	地上4階
ベビー休憩室設置階	1階、2階、3階

1-3. 研究の方法

文献調査と平面分析、観察調査を行う。

- ①「テラスモール松戸」のホームページから施設概要について文献調査を行う。
- ②ベビー休憩室コンセプトブック及びベビー休憩室コンセプトブック別冊^{注6)}より、誰もが利用しやすいベビー休憩室に求められる評価項目を選定する。
- ③選定した評価項目について平面図分析と観察調査から、表にまとめる。平面図から、周辺環境とベビー休憩室との関連や施設全体とベビー休憩室の関連の特徴についてまとめる。
- ④②で選定した評価項目と観察調査結果を基に、それらを配置、構成、設えの3つの項目に分けて分析を行う。

A Study on the Planning Requirements for a Baby Rest Room Accessible to All at
“Terrace Mall Matsudo” in Matsudo City, Chiba Prefecture

Mina HIRANO, Rikako FURUTA and Naoyuki HIROTA

2. 「テラスモール松戸」の設置実態と課題

2-1. 評価項目の選定

ベビー休憩室コンセプトブック及びベビー休憩室コンセプトブック別冊より、誰もが利用しやすいベビー休憩室に求められる評価項目を選定する。評価項目から得られた結果を基に、それらを配置、構成、設えの3つの項目に分けて調査を行う。

2-2. 配置に関する現状

図1より、すべての階でベビー休憩室は施設東側に設置されており、1階は、グルメ・フード、ライフスタイルに関する店舗が多く、ベビー休憩室の周辺は、特にライフスタイルの店舗が多くなっている。加えて、ベビー休憩室はパティオの近くに配置されていることがわかる。表2より、パティオでは子供向けのイベントが多く行われている。

2階は、ファッションやグルメ・フードに関連する店舗が多いことがわかる。ベビー休憩室の配置は、1階と同様に出入り口に近い配置となっており、ベビー休憩室東側は、ライフスタイルの店舗があることがわかる。ファッション関連の店舗が多いことから親世代などの買い物の最中に利用されることがわかる。

3階は、出入り口からは離れた配置となっているがエスカレーターからのアクセスが良い配置となっている。周辺の状況は人目につきやすいフードコートの横に配置されており、ベビー用品店やキッズスペースロコロコ^{注7)}等が併設されている。加えて、3階フロアのファッション用品の店舗は、子供服等も販売されている店舗が多い。3階フロアには、ベビー用品店が多いことがわかる。また、表2よりフードコート内には、調乳用の給湯器が設置されている。

施設全体でみると、各階にベビー休憩室が配置され、多室分散配置がなされている。また、表2より、各階に休憩スペースが配置されている。しかし、ベビー休憩室の周辺には休憩スペースが少ないこともわかる。

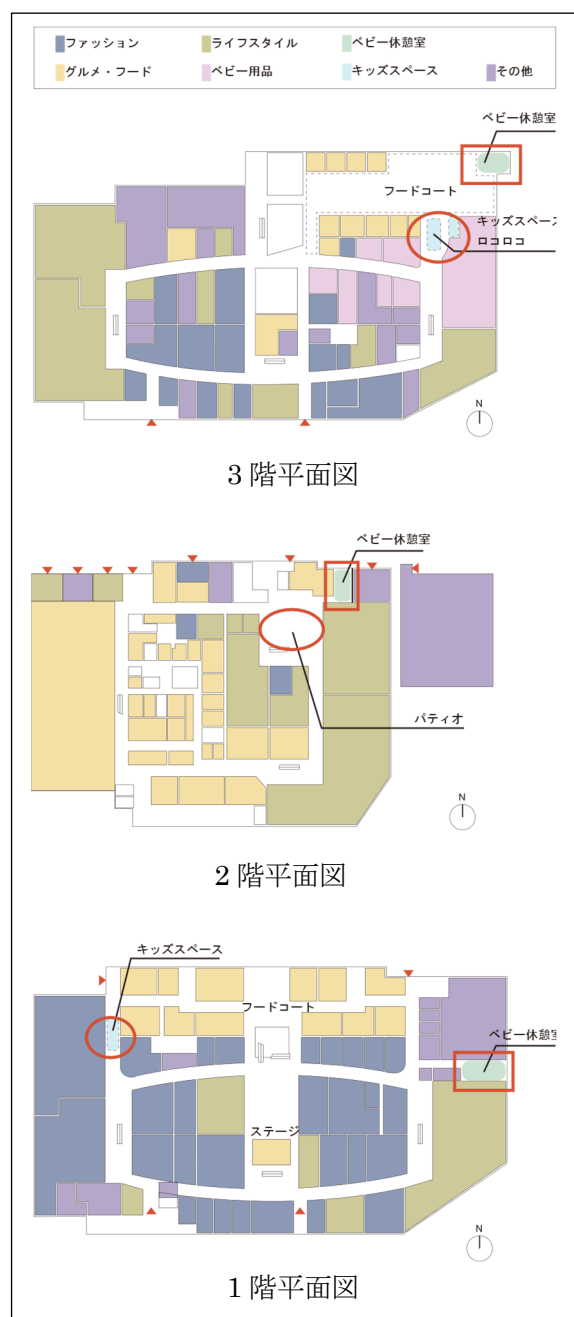


図1 テラスモール松戸の平面図

表2 テラスモール松戸の整備実態

	1階	2階	3階	共通
配置	パティオ近くにベビー休憩室 (パティオで子供向けイベント)	キッズトイレ (女子トイレ内)	フードコート横(フードコートに調乳 器あり) キッズスペース	陽だまりの庭、アトリウムテラス、こ もれびステージなど 休憩・待合可能なスペースあり
構成	ベビーカー置き場なし (ギリギリベビーカーのまま入れる 広さ)	ベビーカー置き場なし (ギリギリベビーカーのまま入れる 広さ)	おむつ替えスペース (男女トイレ) キッズトイレあり (男女トイレ) おむつ替えスペース (多目的トイレ)	ひじ掛け・背もたれのある授乳用椅子 見やすい箇所にサイン計画がある
設え	1階と2階はつくりが類似		トイレ前個室授乳室に「男性利用可 能」のサインあり	温かい色合いの授乳室 サイン計画の整備が充実
備考	パティオでは子供向けイベントも開催		自販機におむつとおしりふきあり	1.2階はほぼ同様の面積であり、3階が 最も面積が広い
	1.2階はほぼ同様の面積であり、3階が最も面積が広い トイレエリアの一角、立たせるタイプのおむつ替え台がない 各階に休憩スペースあり			

2-3. 構成に関する現状

表3より、ベビー休憩室の構成を見ると、授乳、おむつ替え、調乳などの基本的な機能はすべての階で設置されている。表2より、1階と2階にはベビーカー置き場がないことがわかる、

実地調査より、待合スペースや休憩スペースなどの設置は少なくなっているが、表5より、休憩スペースがある場合が多いことがわかる。また、3階にはフードコートがあり、フードコート内には電子レンジ等離乳食のスペースが確保されている。

また、パウダースペースの設置がなく、身だしなみを整えることのできるスペースは確保されていないことから、基本的な機能以外は備えられていないことがわかる。

表4より、ベビー休憩室の備品の整備品目をみると、洗面台、おむつ用ゴミ箱や荷物置き・コート掛けなどベビー休憩室の基本的なものは整備されている。しかし、手洗い場の側にベビーキープがないことや立ったまま利用するおむつ替え台の設置がないことベビーカー置き場がないことなどから、混雑緩和に繋がる備品が整備されていないことがわかる。

表3 スペースの整備品目

	1階	2階	3階
個室授乳室	2	1	5
おむつ替え	2	2	2
調乳	1	1	1
共用の授乳コーナー	0	0	1
ベビーカースペース	0	0	1
待合スペース（マルチゾーン）	0	0	1
休憩スペース	0	0	1
こども用トイレ	0	0	1
離乳食スペース	0	0	1
こども用トイレ	0	0	1
パウダースペース	0	0	0

表4 ベビー休憩室の備品の整備品

	1階	2階	3階
使い捨てペーパーシートの設置	0	0	1
手洗い器などの側にベビーキープ	0	0	0
マルチゾーンの設置	0	0	0
洗面台	1	1	1
調乳機	1	1	1
電子レンジ	0	0	1
ゴミ箱	2	0	2
おむつ用ゴミ箱	1	1	3
立ったままおむつ替え台	0	0	0
飲料自販機の設置	0	0	1
デジタルサイネージの設置	0	0	0
荷物置き、コート掛け	1	1	1
上の子のための家具・備品	0	0	0
身づくろい用の鏡	0	0	0

2-4. サイン計画に関する現状

表5より、個別授乳室が使用中かわかる表示や利用可能な人の表記などが全ての階で充実していることがわかる。観察調査より、ベビー休憩室のサイン計画は、「男性利用可能」の表記があることや「男性の方はご遠慮ください」の表記がある。しかし、サイン計画の視点から、「混雑時はゆずりあってご利用ください」の表記のみとなっており、混雑時のオペレーションはすべての階で共通して、整備されていないことがわかる。

また、見やすい場所に大きなサインがあることや利用可能な人が明記されていることから、ベビー休憩室を使いたいときにスムーズに利用することが可能な設えになっているといえる。しかし、混雑時のオペレーションが充実していない点から、混雑時には対応していない整備状況であるといえる。

表5 ベビー休憩室のサイン計画

	1階	2階	3階
使用中かわかる表示	○	○	○
女性のみかわかる表示	○	○	○
男性が入れる表示	○	○	○
性別による動線の明示	○	○	○
混雑時のオペレーション	×	×	×
おむつ用ゴミ箱の表記	○	○	○
配置場所の明記	○	○	○

3. 空間の考察

ベビー休憩室の計画的要件として、誰もが利用しやすいベビー休憩室の空間について、配置、構成、設えの視点から考察を行う。結果を以下に示す。

配置：2-2より、施設におけるベビー休憩室の配置についてみる。1階、2階は子供向けの店舗が少ないが、子供向けのイベントが行われることの多いパティオ周辺に設置されていることがわかる。3階では、フードコートやベビー用品店の近くに配置されており、利用しやすい配置となっていることがわかる。また、キッズスペース等も設置されており、兄妹などの家族がいる場合にも対応可能となっている。施設全体で見た場合、多室分散により少ない移動で利用が可能である。

構成：施設におけるベビー休憩室の構成についてみる。2-3より、すべての階のベビー休憩室において基本的な機能が備わっていることがわかる。ベビー休憩室の備品の整備品目をみると、洗面台、おむつ用ゴミ箱や荷物置き・コート掛けなどベビー休憩室の基本的なものは

整備されている。しかし、ベビーカー置き場がないことから、乳幼児連れでの外出の際に利用頻度の高いとされるベビーカーを置く場所の確保がされていないため、適切な広さの確保がなされておらず、円滑な行動ができないことが課題として考えられる。また、手洗い場の側にベビーカーがないことや立ったまま利用するおむつ替え台の設置がないことがわかる。使い捨てペーパーシートの設置がないことから、衛生面に対しての配慮が少ないことが考えられる。

設え:施設におけるベビー休憩室の構成についてみる。2・4より、すべての階でサイン計画が充実していることがわかる。これにより、ベビー休憩室へスムーズに向かうことができることや男性の利用しやすいさの向上に繋がる。しかし、混雑時に対応したオペレーションがないことやパウダースペース、待合スペース等がないことなどの整備状況があげられる。

4. まとめ

本稿では、千葉県松戸市の「テラスモール松戸」を対象施設とし、平面分析と観察調査、文献調査を基に誰もが利用しやすい施設について調査を行った。結果を以下に示す。

「テラスモール松戸」は、利用可能者の明記サイン計画等施設全体を通して配置、構成、設えのすべての項目において利用しやすい計画となっているといえる。

誰もが利用しやすい空間の計画的要件を配置、構成、設えの視点から以下にまとめる

配置から、多室分散がなされ子供関連の施設に近いことやベビー休憩室は、子どもに関連するイベントが開催されるパティオやベビー用品店の近くに配置されるなど子供に関連する施設の近くに配置される共通点がある。構成から、おむつ替え台、個室授乳室、授乳椅子など、ベビー休憩室の基本的な整備品目が充実しており、加えて、混雑時や衛生面に配慮した備品が備わっていることが必要であると考え。最後に設えから、見やすいサイン計画が重要であると考え。また、施設全体をみると多室分散等の配慮がなされており、利用しやすいと考えることができる。

調査結果をベビー休憩室コンセプトブック及びベビー休憩室コンセプトブック別冊から、誰もが利用しやすいベビー休憩室に求められる環境と比較すると、「テラスモール松戸」の混雑時に対応するための設備は不十分であることがわかる。さらに、子育て中の家族にとっては、待合スペースがないことや兄妹の遊ぶスペースがないことが課題であるといえる。

今後の展望として、面積等による整備の違いやベビー休憩室の利用実態をみることで、誰もが利用しやすいベビー休憩室の整備実態について把握することを課題とする。また、整備状況の差について調査を行う。特に、規模による空間の違いや整備実態を明らかにする。また、混雑時にも対応可能な設備が整っている施設等に関しても調査を行うことを課題とする。

【注】

- 注1) ベビー休憩室には、「ベビールーム」「赤ちゃん休憩室」などがある。その利用目的は、おむつ替え、授乳、食事、着替え等、赤ちゃん連れでの外出には必要不可欠な場所である。
- 注2) 平野三奈, 古田莉香子, 広田直行「千葉県松戸市のコミュニティ施設における男性目線を考慮したベビー休憩室の設置実態に関する」pp219-220, 2024, 8
- 注3) 松戸市では、ベビー休憩室の設置として「赤ちゃんぽけっと」事業としての登録を進めている。2022年6月3日時点で74施設が登録されており、子育てに関する豊富な助成金制度、保育機関の充実、子育て支援としての遊びや交流の場の提供が充実している地域である。
- 注4) 仲綾子, 谷口新「大型ショッピングセンターにおけるベビー休憩室等の整備実態に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集, pp349-350, 2017. 8
- 注5) テラスモール松戸から5km圏内
- 注6) 仲綾子, 内田将夫「ベビー休憩室コンセプトブックの開発と評価」日本建築学会技術報告集
- 注7) 保育者養成で著名な聖徳大学の学生と学術的な視点を取り入れ、コンセプトから使われ方まで検討を重ね、松戸ならではのキッズスペースを開発しました。フードコート「ケヤキッチン」に近接する。

【参考文献】

- 1) 若竹雅宏, 広田直行「福岡市における「赤ちゃんの駅」の設置実態について」日本大学生産工学部第54回学術講演会講演概要, pp. 704-707, 2021. 12
- 2) 若竹雅宏, 広田直行「ベビー休憩室の設置実態と利用者意識の関係についてー福岡市を対象としてー」地域施設計画研究 40, pp. 373-382, 2022. 7
- 3) 仲綾子, 谷口新「大型ショッピングセンターにおけるベビー休憩室等の整備実態に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集, pp349-350, 2017. 8
- 4) 仲綾子, 内田将夫「ベビー休憩室コンセプトブックの開発と評価」日本建築学会技術報告集, 第21巻 第49号, pp. 1173-1176, 2015.10
- 5) 仲綾子, 谷口新「複合商業施設における行動観察調査にもとづくおむつ替えゾーンを中心としたベビー休憩室の利用実態と計画課題」日本建築学会計画系論文集, 第81巻, 第724号, pp. 1259-1268, 2016. 6
- 6) 田才知未, 森傑「男女共同参画からみた親子休憩室の実態と課題-札幌市内における商業施設を対象として-」日本建築学会計画系論文集, 第76巻, 第666号, pp. 1379-1388, 2011. 8
- 7) 張美琴, 頼文波「ベビー休憩室の空間構成と利用状況評価に関する研究」日本感性工学会論文誌, Vol. 19 No. 4, pp. 343-352, 2020.
- 8) テラスモール松戸HP(参照: 2024. 10. 12)
<https://terracemall.com/matsudo/>
- 9) 松戸市ホームページ(参照:2023. 10. 11)<https://www.city.matsudo.chiba.jp/kosodate/matsudodekosodate/index.html>